

たきざわ 伝統芸能祭り

令和7年 **5月5日**
(土曜日の日)

入場無料

出演

篠木神楽保存会
川前神楽保存会

 滝沢市さんさ踊り保存会



 大沢さんさ踊り保存会



会場で 
チャクチャク馬ごと
写真が撮れます！

ゲスト出演
民謡歌手
(滝沢市) **藤岡祐衣さん**



ゲスト出演
行山流口内鹿踊
(北上市)



往復シャトルバス運行 
滝沢市役所前～鬼越蒼前神社
9時30分始発～15時30分終了

会場 **鬼越蒼前神社境内**
開演 10時 終演 15時30分
餅まき 12時 抽選会 15時15分

主催／一般社団法人滝沢市観光物産協会 後援／滝沢市 滝沢市教育委員会
問合せ先／TEL：019-601-6327 FAX：019-601-6328 アクセス：滝沢市鶴銅外久保100-3

神社の駐車場は駐車台数に限りがございます。市役所の駐車場をご利用頂き、バスをご利用ください。
スケジュール等、詳細は決まり次第、HPにて掲載予定。小雨決行、雨天時は中止となります。予めご了承ください。

協会HPはこちら→



出演団体紹介

滝沢市さんさ踊り保存会

さんさ踊りは、旧南部領における代表的な盆踊りとして、お盆を中心にどこの集落でもよく踊られていました。

滝沢市さんさ踊りは、旧滝沢村時代に村の伝統さんさ踊りを普及するために昭和54年に保存会を発足しました。滝沢村さんさ踊り保存会を結成し市制移行後は、滝沢市さんさ踊り保存会として活動を継続。令和5年2月に滝沢市指定無形民俗文化財に登録されました。

衣装のゆかたには、郷土の誇りチャグチャグ馬コと「たきざわ」の文字がデザインされています。さんさ踊りを教える活動にも力を入れており、会員は高校生以下の子供たちが多く活気あふれる団体です。

大沢さんさ踊り保存会

大沢さんさ踊り保存会の歴史は、大正10年に現在の田沢湖線開通式の祝賀会で踊ったとの記録が最古のものとして残っています。現在会員は年少から70代までと幅広く、盛岡さんさ等年中を通して様々なイベントに出演させていただいています。

これからも「教えていただく感謝・場を提供していただく感謝・見ていただく感謝・伝統さんさ踊り継承の責任」を心に練習を積み、皆様に楽しんでいただける踊りを披露できるよう努力していきます。

令和5年2月に滝沢市指定無形民俗文化財に登録されました。

篠木神楽保存会

篠木神楽は滝沢市篠木の地にある田村神社の奉納神楽で、神主である斎藤家の秘流として、古くから伝えられてきた神楽で、400年以上の歴史がある神楽です。

演目は、鳥舞、八幡舞、山神舞、獅子舞など26番あります。

県文化財専門委員の故森口多里氏によると「篠木神楽は、きれいだとか華やかだとかに反し、古雅、簡素、素朴で由緒正しい伝統を持ち、昔のまま保存されている県内の山伏神楽とは舞型も異にしており、文化財価値が非常に高い」と評されており、昭和42年3月1日に滝沢村の無形民俗文化財第1号に指定され、平成23年5月10日に岩手県無形民俗文化財の指定を受けています。

川前神楽保存会

およそ200年前に秋の収穫を祝い、篠木神楽一行が川前地区を訪れ神楽を舞ったと言われており、その当時、権現様を祀っていた川前地区の先祖が篠木神楽を習ったのが始まりと聞いています。

昔は、神道神楽として岩手山神社例大祭で奉納し、登山者安全の願掛けをしておりその後、岩手山講中神楽の指定を受けました。昭和52年12月10日、村指定無形民俗文化財の指定を受け、現在は小中高生の応援も頂き様々なイベントに参加しております。

行山流口内鹿踊保存会

「鹿踊」は、岩手県・宮城県に伝承される風流芸で、鹿の頭をかぶり背には長いささらを負い、激しく跳躍しながら太鼓を打ち、自ら唄を歌って踊る極めてダイナミックな芸能です。盆や祭の時に五穀豊穰、悪魔退散、安穏息災、家内安全等を祈願し寺社の境内や家々の庭等に練りこんで踊られました。

そして「行山流口内鹿踊」は、西に奥羽、東に北上山系の美しい山々が連なる北上地方で、文化11年(1814年)より継承される鹿踊で、「行山流」の名は伊達公より「ぎょうさんな踊り」と褒められた事に由来し、その証として九曜の紋や竹に雀の紋等を賜り、装束に染め出しています。ダイナミックな中でも唄の節回しと細やかな足の所作に特徴がある、北上の人々の魂が宿る躍動的な踊りです。